

股継手に油圧式多軸膝継手を用いた股義足の一症例

橋本 寛、谷 裕司、川村 慶
[川村義肢株式会社]

米田 吉寿
[関西医科大学付属香里病院]

従来 当社では股義足にオットボック社製股継手7E7を多く用いてきたが、この継手の屈曲制御ばねでは十分な制御を行い得なかった症例を経験した。

本症例は24歳の男性で、平成9年5月に股離断術施行。同年10月に訓練用義足製作（カナダ式フルソケット、股継手7E7、膝継手3R60、足部1D10）、歩行訓練を開始した。

歩行能力が上がるにつれ7E7の屈曲制御ばねでは十分な股継手の屈曲制限が得られず、過大な屈曲を生じた股継手が伸展するまでのロスタイムが歩行速度を上げる障害となった。

これを解決するため、オットボック社製注型アンカー4G70=Hを使用し膝離断用油圧制御多軸膝継手3R46を股継手として本義足を製作した。

油圧シリンダーによる十分な股継手の屈曲制限ができるようになり、思い切った振り出しをしても屈曲角度が過大とならず、伸展を待つ必要がなくなったためスムーズに歩行・走行できるようになったので報告する。